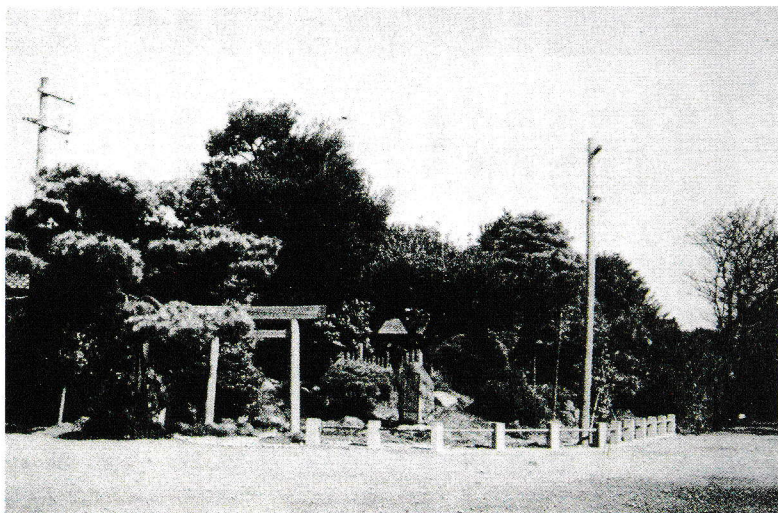


沼津市

明治史料館通信

2005.4.25 (季刊 年4回発行) Vol. 21 No. 1 通巻第81号



片浜神社 (『かたはま』より)



「片浜神社」標石
(片浜小学校内)

片浜の戦争記念碑

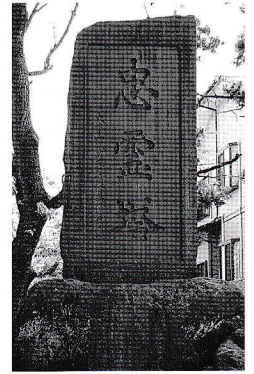
片浜神社

現在、片浜小学校敷地内のががみの池となっている場所に建立された。昭和九年一月一日、鎮座式挙行。建立に先立つ昭和八年九月の地鎮祭の時点では「招魂社」とされており、片浜村の忠魂碑的意味合いで建立されたと推測される。陸軍記念日(三月一〇日)に慰霊祭が挙行され、児童が参列していた。出征する兵士も参拝していたとのことである。

神社がいつ頃撤去され、現在の状況になったかについては明らかではないが、昭和九年四月一五日に在郷軍人分会が建立した「片浜神社」碑が、かがみの池の築山の中に、碑の下部が埋没した状態で残されている。

尚、片浜尋常小学校の奉安殿は、敷地の南西の隅(現在のプールの辺り)に置かれており、昭和二一年八月撤去された。GHQの指導によるものであろう。

ぬまづ近代史点描 ⑥



忠霊塔（東間門）

忠霊塔

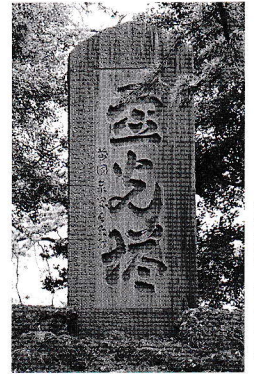
東間門の共同墓地の隣接地、六代松のところに、東間門区民一同で昭和二十九年九月建立。揮毫は大本山光長寺貫主大僧正日洋。裏面には、昭和十三年から二十二年までの地区出身戦没者37名の陸海軍の別、氏名、戦没年月日と建立趣旨が刻されている。台座部の裏側に石扉が見え、納骨施設となっていると推測される。毎年三月の彼岸に慰霊祭が行われている。

忠魂碑

西間門の共同墓地に隣接する地、「霊光塔」の右側に建つ。昭和十三年建立。揮毫は宇垣一成。碑裏



忠魂碑（西間門）



霊光塔（西間門）

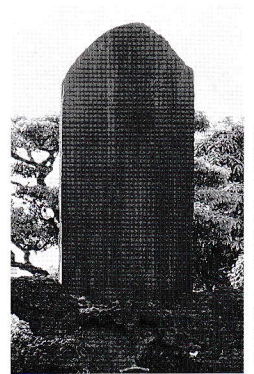
面には、発起人として片浜村村長長倉宜一以下、西間門区長・副区長、在郷軍人会、消防組、青年会、区民一同の代表の氏名と、寄附者が刻されている。現在、「霊光塔」の前に置かれている燈籠一対はこの時寄附されたものである。

霊光塔

西間門自治会で昭和二十八年三月彼岸建立。裏面に地区出身戦没者、日露戦争3名、支那事変7名、大東亜戦争39名の氏名と戦没年月日が刻されている。

忠霊塔

小諏訪の正覚寺境内に建つ。小諏訪区で昭和二十七年三月二〇日建立。題号下に地区出身戦没者、日清戦争1名、満州事変1名、日支事変5名、大東亜戦争40名の軍別、階級、氏名が刻され、碑裏面に大野虎雄撰、土屋雪嶺書の建立趣旨が刻されている。碑前の燈籠の一



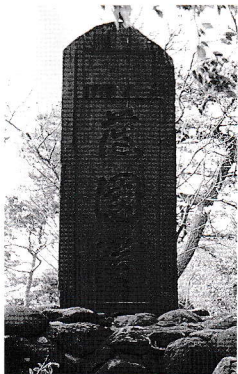
忠霊塔（小諏訪・正覚寺）

基には在郷軍人会と刻されているが、これは後に何処からか持ってきたものらしい。正覚寺では毎年春の彼岸に戦没者慰霊祭を執り行っている。

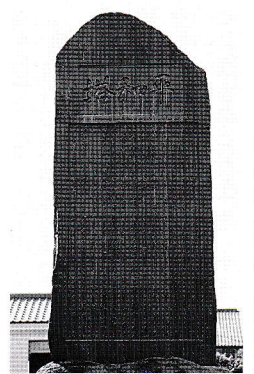
護国塔

大諏訪保安林中の共同墓地に隣接する地に建つ。大諏訪区民一同で昭和二十八年八月一〇日建立。裏面に昭和十二年から二十八年までの地区出身戦没者56名の軍別、氏名、戦没年月日、戦没地と建立趣旨が刻されている。

碑前に平成七年に「五〇回忌供養と併せ世界人類の平和を祈願」して平和祈願塔が建立されている。



護国塔（大諏訪）



平和塔（松長・蓮窓寺）

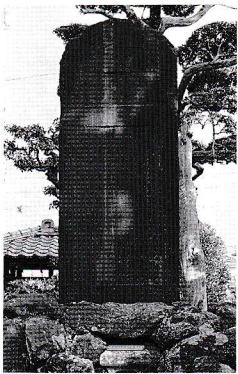
平和塔

松長の蓮窓寺境内に建つ。松長区、帰還軍人、遺族会で昭和二十六年八月九日建立。題号下に地区出身戦没者39名の軍別、階級、氏名が刻され、裏面の建立趣旨は大野虎雄撰、大橋居石書。

戦時中、昭和十七年に建立された「屍籠塔」が前身である。

忠霊塔

今沢の祥雲寺境内に建つ。今沢区で昭和二十七年九月建立。題号下に支那事変から大東亜戦争の地区出身戦没者30名の軍別・氏名が刻され、裏面の建立趣旨は三島雪嶺こと土屋清一の撰並書。



忠霊塔（今沢・祥雲寺）

江原素六とその周辺<39>

江原素六翁古稀祝賀会の発起人



発起委員のひとり真野文二 (鈴木金男氏提供)

明治四五年(一九二二)六月一日麻布中学校の校庭を会場に江原素六の古稀祝賀会が開催された。同年四月には貴族院議員に勅選されており、その祝いも兼ね、友人・後輩・教え子らが催したものである。発起委員は小田川全之・野田卯太郎・野崎広太・真野文二・益田孝・赤松範一の六名、他に表に掲げたように一二四名が発起人名を連ねていた。当日は、三百余名が来会し、さらに麻布中学校の生徒六百名余も参列した。

天命を楽しみ、徳行をなしたという、中国春秋時代の孔門の賢人顔回(顔淵)を引き合いに出し、江原が顔回のような行いをしながらも政治家として俗界において活躍していることを称賛した。江原は謝辞の中で、貧しく志のない家庭環境で育った自分がここまで来れたのは、ひたすら「恩寵」によるものであると述べた。集まった祝賀金四八〇〇円は麻布中学校に寄付された。表は、発起人一二四名を江原との関わりを示す出身によって分類したものである(同一人物が複数に分類される場合もあるが、あえてダブらないようにした)。これを見て一目瞭然なのは、四五パーセント超が元沼津兵学校関係者だった点である。とりわけ兵学校・附属小学校の生徒出身者たちは、明治末年に至るまで江原を恩師として敬愛していたことが改めてわかる。もちろん集成舎・沼津中学校時代の

の教え子たちも同様だったろう。沼津兵学校こそが江原の人脈の基礎をなしていたのである。

〔参考文献〕『江原素六先生伝』、『江原素六翁古稀祝賀会報告書』(明治四五年刊) (樋口雄彦)

江原素六翁古稀祝賀会の発起人

Table with 3 columns: 出身 (Origin), 人名 (Name), 人数 (Number of people). Rows list various individuals and their affiliations, such as '沼津兵学校教授' (2 people) and '計' (Total, 124 people).

『江原素六翁古稀祝賀会報告書』(江原文書M-20)より作成

お知らせ欄

◎「沼津城のあゆみ」案内板が建立されました

去る3月19日、中央公園の沼津城本丸趾碑のとなり「沼津城のあゆみ」案内板が建立され、除幕式が行われました。同板は沼津香陵ライオンズクラブによって建設され、沼津市に寄付されました。案内板の作成にあたっては当館も協力しました。



中央公園に建設された案内板

◎映画「沼津兵学校」の上映会を行いました

去る3月26日、市内上本通り商店街主催の第2回代戯館まつりのひとつとして、当館所蔵の映画「沼津兵学校」（昭和14年作品・今井正監督）の上映会を、沼津信用金庫本店4階ホールで行いました。

上映会に先立つ講演会では、当館協議会委員でもある沼津史談会会長の四方一澄氏が西周について基調講演した後、当館元学芸員で現在国立歴史民俗博物館助教授の樋口雄彦氏と「西周の人と業績」をテーマに公開対談しました。

また、大手町の「沼津兵学校附属小学校跡」記念碑（平成10年建立）の隣に、「西・大築屋敷跡表示板」が設置され、除幕式が行われました。同板は上本通り商店街振興組合によって作成されました。同板には当館所蔵「沼津略図画」（旧幕臣桑山家文書）が使用されています。

◎平成16年度受贈資料（受贈順）

「喜の音」（佐藤哲寿様）、旧沼津藩士尾崎家資料（尾崎明様）、「駿東文園」（阿部壽彦様）、沼津城の

瓦（宮治孝美子様）、絵葉書（鈴木吉兼様）、古書（大和健二様）、黒

電話（高田篤三様）、旧幕臣多喜家資料（多喜展旦様）、奥村隆祥関係資料（奥村さな江様）、空襲で被弾した梁（杉本正志様）、古銭・支那事変記念章（鈴木博道様）、軍票・軍隊手帳等（梅原廣志様）、ハンゴウ（戦時資料）（加藤昇様）、駿東病院関係資料（武藤滋様）、旧本陣清水家関係資料（清水昭一郎様）

◎平成16年度館蔵資料の展示等貸出・提供

三島市郷土資料館「チョウとトシボウのぞいてみよう！虫の世界」展、旧赤松家記念館常設展示、葦山町立葦山郷土史料館「黎明期の写真師く下岡蓮杖とその時代」展、豊橋市二川宿本陣資料館「東海道の城下町展」、東京都江戸東京博物館「ある幕臣の幕末・明治―井上康と川村帰元」、沼津市歴史民俗資料館「3市博物館共同企画展 暮らしの中の食文化」、横浜開港資料館「蓮杖&金幣―横浜写真ことばはじめ」、芹沢光治良文学館「赤坂沼津学園く我等は海と松風育ち―資料・写真展」、

富士市立博物館「ディアナ号の軌跡く日露友好の幕開け」

◎平成16年度館蔵資料の出版物、テレビ等への写真・資料提供（順不同・未刊を含む）

SBSテレビ「狩野川く我入道の渡し」、佐倉市「写真にみる佐倉」PHPR研究所「歴史街道スペースヤル 名城を歩く23 五稜郭」、吉川弘文館『日本の時代史26』伊豆長岡町『伊豆長岡町史 下巻』沼津牧水会「館報」34号、沼津香陵ライオンズクラブ「会報」、同クラブ「沼津城観光案内板」、沼津史談会「沼津史談」第56号、上本通り商店街振興組合「沼津兵学校附属小学校記念碑案内板」、同組合「上本通り商店街ホームページ」、代戯館ホームページ」

沼津市明治史料館通信 第81号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二-1
電話 〇五五九二-三三三三五
FAX 〇五五九二-五三〇一八
<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm>